

第2回 沼田市教育機関の適正配置及び設置に関する審議会

多様化・複雑化する様々な課題解決を目指す

沼田市の特色をいかした

新たな時代の 学校教育の 構築に向けて



1. 新たな時代に求められる学校教育
2. 学校の形態
3. 教育課程の編成・実施、指導方法に関する様々な工夫
4. 沼田市の特色をいかした

魅力ある教育活動を推進する「新たな学校」づくりに向けて

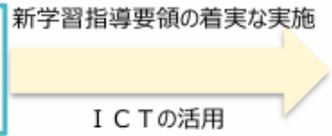
「令和の日本型学校教育」の構築を目指して
～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～(答申)【概要】

第Ⅰ部 総論

令和3年1月26日
中央教育審議会

1. 急激に変化する時代の中で育むべき資質・能力

- 社会の在り方が劇的に変わる「Society5.0時代」の到来
- 新型コロナウイルスの感染拡大など先行き不透明な「予測困難な時代」



一人一人の児童生徒が、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるようにすることが必要

2. 日本型学校教育の成り立ちと成果、直面する課題と新たな動きについて

成果

- 学校が学習指導のみならず、生徒指導の面でも主要な役割を担い、児童生徒の状況を総合的に把握して教師が指導を行うことで、子供たちの知・徳・体を一体で育む「日本型学校教育」は、諸外国から高い評価
- 新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、全国的に学校の臨時休業措置が取られたことにより再認識された学校の役割
 - ①学習機会と学力の保障 ②全人的な発達・成長の保障 ③身体的、精神的な健康の保障（安全・安心につながる可以保证の居場所・セーフティネット）

課題

- 子供たちの意欲・関心・学習習慣等や、高い意欲や能力をもった教師やそれを支える職員の力により成果を挙げる一方、変化する社会の中で以下の課題に直面
- 本来であれば家庭や地域でなすべきことまでが学校に委ねられることになり、結果として学校及び教師が担うべき業務の範囲が拡大され、その負担が増大
 - 子供たちの多様化（特別支援教育を受ける児童生徒や外国人児童生徒等の増加、貧困、いじめの重大事態や不登校児童生徒数の増加等）
 - 生徒の学習意欲の低下
 - 教師の長時間勤務による疲弊や教員採用倍率の低下、教師不足の深刻化
 - 学習場面におけるデジタルデバイスの使用が低調であるなど、加速度的に進展する情報化への対応の遅れ
 - 少子高齢化、人口減少による学校教育の維持とその質の保証に向けた取組の必要性
 - 新型コロナウイルス感染症の感染防止策と学校教育活動の両立、今後起こり得る新たな感染症への備えとしての教室環境や指導体制等の整備



必要な改革を躊躇なく進めることで、従来の日本型学校教育を発展させ、「令和の日本型学校教育」を実現

令和の日本型学校教育」の構築を目指して

～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～

(答申)

(令和3年1月26日 中央教育審議会)

「令和の日本型学校教育」の構築を目指して
～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～(答申)【概要】

令和3年1月26日
中央教育審議会

第1部 総論

1. 急激に変化する時代の中で育むべき資質・能力

新学習指導要領の着実な実施
ICTの活用

一人一人の児童生徒が、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるようにすることが必要

2. 日本型学校教育の成り立ちと成果、直面する課題と新たな動きについて

成果

- 学校が学習指導のみならず、生徒指導の面でも主要な役割を担い、児童生徒の状況を総合的に把握して教師が指導を行うことで、子供たちの知・徳・体を一体で育む「日本型学校教育」は、諸外国から高い評価
- 新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、全国的に学校の臨時休業措置が取られたことにより再認識された学校の役割
 - ①学習機会と学力の保障 ②全人的発達・成長の保障 ③身体的、精神的な健康の保障（安全・安心につながるができる居場所・セーフティネット）

課題

子供たちの意欲・関心・学習習慣等や、高い意欲や能力をもった教師やそれを支える職員により成果を挙げる一方、変化する社会の中で以下の課題に直面

- 本来であれば家庭や地域でなすべきことまでが学校に委ねられることになり、結果として学校及び教師が担うべき業務の範囲が拡大され、その負担が増大
- 子供たちの多様化（特別支援教育を受ける児童生徒や外国人児童生徒等の増加、貧困、いじめの重大事態や不登校児童生徒数の増加等）
- 生徒の学習意欲の低下
- 教師の長時間勤務による疲弊や教員採用倍率の低下、教師不足の深刻化
- 学習場面におけるデジタルデバイスの使用が低調であるなど、加速度的に進展する情報化への対応の遅れ
- 少子高齢化、人口減少による学校教育の維持とその質の保証に向けた取組の必要性
- 新型コロナウイルス感染症の感染防止策と学校教育活動の両立、今後起こり得る新たな感染症への備えとしての教室環境や指導体制等の整備

教育振興基本計画の理念（自立・協働・創造）の継承 → 学校における働き方改革の推進 → GIGAスクール構想の実現 → 新学習指導要領の着実な実施

必要な改革を躊躇なく進めることで、従来の日本型学校教育を発展させ、「令和の日本型学校教育」を実現

子供たちの多様化

特別支援教育を受ける児童生徒、外国人児童生徒、
貧困・いじめ・不登校児童生徒等の増加

生徒の 学習意欲の低下

人口減少 少子高齢化

加速度的に進展する 情報化への対応

教師の 負担増大

感染防止策と 教育活動の両立

深刻化する 教師不足

変化する社会の中で直面している

学校教育の 課題



GIGAスクール構想

1人1台端末
デジタル教科書

ICT環境の整備により
質の高い学びの実現

非認知能力

- 自分の目標を目指して粘り強く取り組む
- そのためにやり方を調整し、工夫する
- 友達と同じ目標に向けて協力し合う

エージェンシー

よりよい未来の創造に
向けた変革を呼び起こす力

自律した学習者

自分で考え、自分で決めて、
自分で動き出す

探究的な学び

自ら課題を見つけ、情報を収集・整理・
分析しながら問題の解決に取り組み、
意見をまとめ・表現する学習活動

個別最適な学び

全ての児童生徒に基礎学力を習得させる
ため、一人一人にあう柔軟な指導を行う

主体的・対話的で深い学び

- 学ぶことに興味や関心を持ち、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、見通しをもって粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる。
- 子供同士の協働、教職員や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通じ、自己の考えを広げ深める。
- 習得・活用・探究という学びの過程の中で、各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう。

STEAM教育

各教科等横断的な学習の推進
Science (科学)、Technology (技術)、
Engineering (工学)、Arts (芸術)、
Mathematic (数学)

働き方改革

時間外労働の縮減、
ワークライフバランス

協働的な学び

多様な他者と関わりの中で、
自分とは異なる考え方に
触れながら、学びを深める

インクルーシブ教育

国籍や人種などの違いに関係なく、
同じ場所で共に学び合う

フリースクール

不登校の子供に対して支援を行う施設

コミュニティ・スクール

保護者や地域のニーズを反映させるために、
地域住民が学校運営に参画できるようにする
仕組や考え方を有する形態の学校

ウェルビーイング

身体的・精神的・社会的に良好な状態

1. 従来から設置されている学校

小学校

6~12歳が通う教育機関
沼田市内に11校設置

中学校

12~15歳が通う教育機関
沼田市内に9校設置

2. 新たな形態の学校

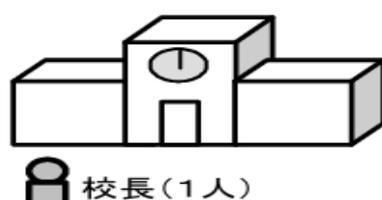
※文部科学省「小中一貫した教育課程の編成・実施に関する手引」(平成28年12月26日)より抜粋

小中一貫教育

小中連携教育のうち、小・中学校段階の教員が目指す子供像を共有し、9年間を通じた教育課程を編成し、系統的な教育を目指す教育

①義務教育学校

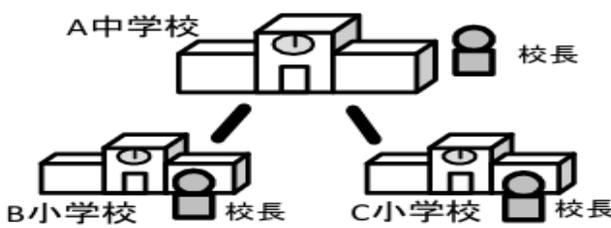
- ・新たな学校種(一つの学校)
- ⇒一人の校長、一つの教職員組織
- 修業年限: 9年
(前期課程6年+後期課程3年)



小中一貫型小学校・中学校

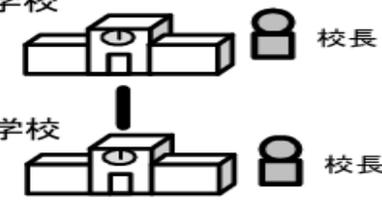
- ・組織上独立した小学校及び中学校が一貫した教育を施す形態
- ⇒それぞれの学校に校長、教職員組織

②併設型小学校・中学校 (同一の設置者)



※一貫教育にふさわしい運営体制の整備が要件
例・総合調整を担う校長を定める
・学校運営協議会の合同設置
・校長等を併任

③連携型小学校・中学校 (異なる設置者)



※併設型小・中学校を参考に適切な運営体制を整備すること

※①②③いずれも施設の形態は問わない。

2. 学校の形態 ～小・中学校、義務教育学校、小中一貫校、小規模特認校～

1. 従来から設置されている学校

小学校

6～12歳が通う教育機関
沼田市内に11校設置

中学校

12～15歳が通う教育機関
沼田市内に9校設置

2. 新たな形態の学校 ※文部科学省が2016年に制度化

義務教育学校

一人の校長の下で一つの教職員組織が置かれ、義務教育9年間の学校教育目標を設定し、9年間の系統性を確保した教育課程を編成・実施する学校。

設置者の判断で、一貫教育の軸となる**新教科等の創設**、学年段階間・学校段階間での**指導内容の入れ替え**、「4-3-2」「5-4」等の柔軟な**学年段階の区切りの設定**等、一貫教育の実施に必要な教育課程上の特例が認められている。

例：北の杜学園(太田市)、黒保根学園(桐生市)
なんもく学園(南牧村)
川場学園(川場村 ※令和7年度開校)

小中一貫校

組織上独立した小学校及び中学校が一貫した教育を施す形態で、それぞれに校長、教職員組織を有する学校。施設の「一体型」「併設型」「連携型」がある。

例：あずま小中学校(みどり市)
ぐんま国際アカデミー
(太田市、私立、小学校「初等部」～高校「高等部」)

小規模特認校

※文部科学省が1997年に制度化
児童生徒数が減少し存続が危ぶまれる学校において、小規模の良さを活かした「特色ある学校運営」を進める場合に限って、自治体全域から児童生徒を集めることが認められている。

2. 学校の形態 ～小・中学校、義務教育学校、小中一貫校～

		義務教育学校	小中一貫型小学校・中学校	
			中学校併設型小学校 小学校併設型中学校	中学校連携型小学校 小学校連携型中学校
設置者		—	同一の設置者	異なる設置者
修業年限		9年 (前期課程6年+後期課程3年)	小学校6年、中学校3年	
組織・運営		一人の校長、一つの教職員組織	それぞれの学校に校長、教職員組織	
			小学校と中学校における教育を一貫して実施するためにふさわしい運営の仕組みを整えることが要件 ① 関係校を一体的にマネジメントする組織を設け、学校間の総合調整を担う校長を定め、必要な権限を教育委員会から委任する ② 学校運営協議会を関係校に合同で設置し、一体的な教育課程の編成に関する基本的な方針を承認する手続を明確にする ③ 一体的なマネジメントを可能とする観点から、小学校と中学校の管理職を含め全教職員を併任させる	中学校併設型小学校と小学校併設型中学校を参考に、適切な運営体制を整備すること
免許		原則小学校・中学校の両免許状を併有 ※ 当分の間は小学校免許状で前期課程、中学校免許状で後期課程の指導が可能	所属する学校の免許状を保有していること	
教育課程		・9年間の教育目標の設定 ・9年間の系統性・体系性に配慮がなされている教育課程の編成		
特例 教育課程の	一貫教育に必要な独自教科の設定	○	○	○
	指導内容の入替え・移行	○	○	×
施設形態		施設一体型・施設隣接型・施設分離型		
設置基準		前期課程は小学校設置基準、後期課程は中学校設置基準を準用	小学校には小学校設置基準、中学校には中学校設置基準を適用	
標準規模		18学級以上27学級以下	小学校、中学校それぞれ12学級以上18学級以下	
通学距離		おおむね6km以内	小学校はおおむね4km以内、中学校はおおむね6km以内	
設置手続き		市町村の条例	市町村教育委員会の規則等	

小中一貫した教育課程の
編成・実施に関する手引

教育内容や学習活動の量的・質的充実

発達の早期化等に関わる現象

いわゆる「中1ギャップ」

社会性育成機能の強化の必要性

学校現場の課題の多様化・複雑化

一人一人の教員の努力や学年単位での努力、
学校単位の努力だけでは十分な対応が困難である。

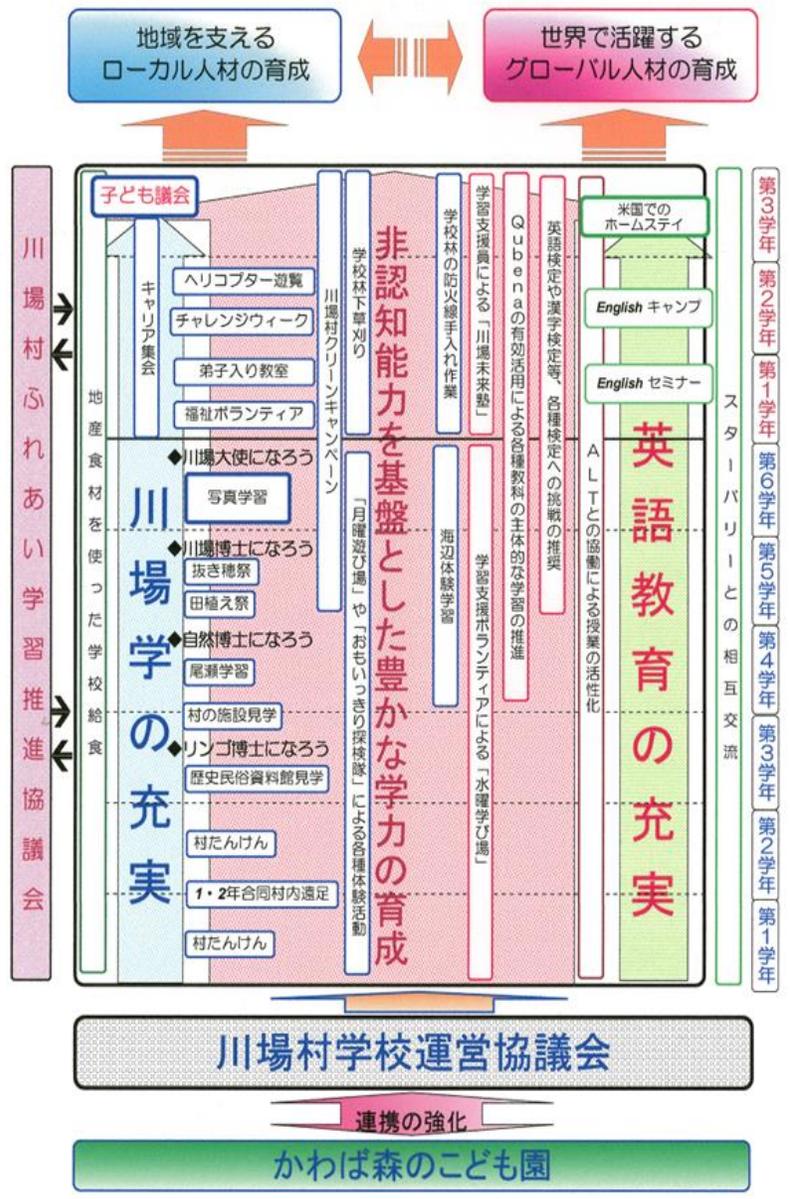
期待されるメリット

義務教育学校・小中一貫校

- 一人の校長の下、一つの教職員組織による9年間の系統性・一貫性を確保した教育課程の編成・実施
- 目指す子供像を共有し、系統性・連続性を強化した教育課程の実施
- 小学校高学年における教科担任制や乗り入れ指導による学力の向上
- 発達段階に応じた継続的な生徒指導の実現
- 多様な異学年交流による社会性・人間力の育成
- 教職員の意識及び行動の変革

令和6年4月1日現在

川場村ふるさと人材(グローバル人材)育成構想



【川場村小中一貫教育推進基本方針】

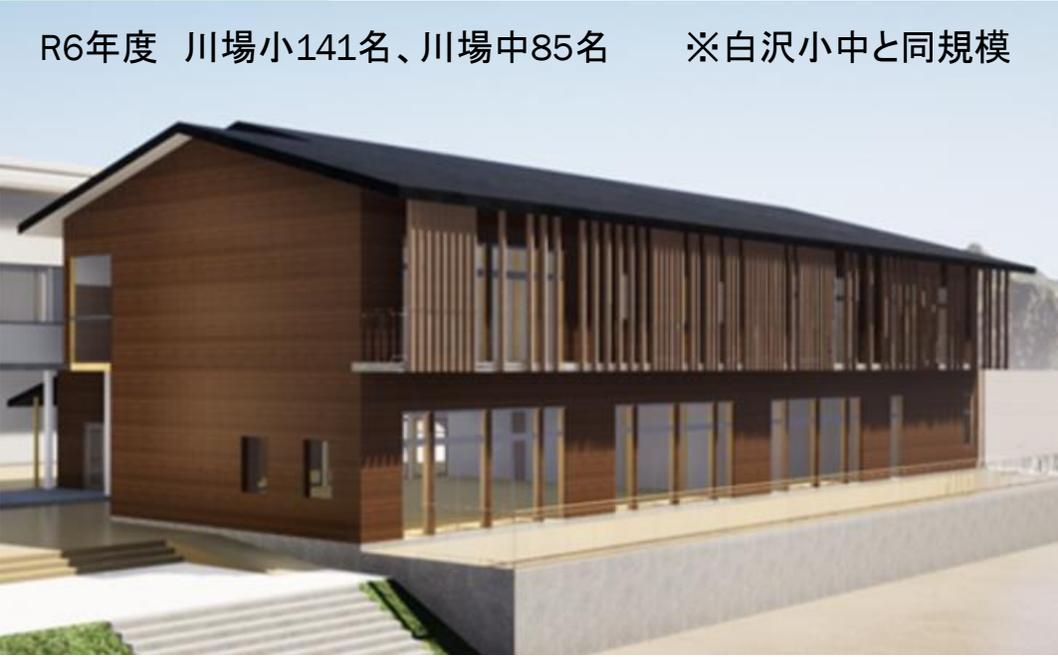
施設一体型の義務教育学校により切れ目のない9年間の教育を推進し、指導の一貫性や学びの連続性、異学年交流の常態化などを重視しながら「川場村ふるさと人材」の育成を目指す。

※川場村ふるさと人材
自らの力で村を支えていこうとする意欲や志を持つとともに、故郷(ローカル)に軸足を置きながら世界(グローバル)で活躍できる人材グローバル人材

カリキュラムの特徴「3つの指針」

- ①非認知能力の育成
- ②ふるさと学習「川場学」の充実
- ③英語教育の充実による「グローバル」な子どもの育成

小学校課程 6年				中学校課程 3年				
前期4年(基礎形成)			中期3年(充実)			後期2年(発展)		
1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生	7年生	8年生	9年生
望ましい自己肯定感を身に付けた子どもの育成								
学級担任制				乗り入れ授業		教科担任制		
川場村の豊かな自然の中で、様々な体験活動を通して、基本的な学習習慣や人間関係力を培う。				教科担任制による専門的な学びを通して、教科の本質に触れながら主体的な追究力を培う。		自らの生き方を見つめ、夢の実現に向けて進路を切り拓いていく力を培う。		
45分授業				50分授業				



R6年度 川場小141名、川場中85名 ※白沢小中と同規模

下仁田町立下仁田中学校



1965年 小9校、中5校
↓
2012年 小1校、中1校
↓
併設型一貫校
移行準備

※資料の出典は学校HP

令和5年度
生徒数

※下仁田町
唯一の中学校

白沢中と同規模



学年	男	女	計
1	7	16	23
2	12	12	24
3	12	12	24
特支	3	2	5
合計	34	42	76

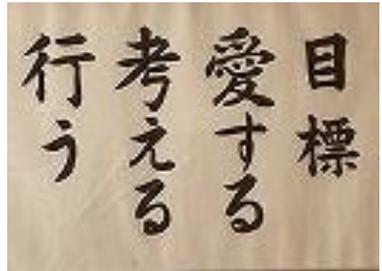


下仁田町で目指す児童生徒

自主的な小学生(自分から進んで)
自律した中学生(自分で考えて、自分で決めて、自分で行動する)

※写真はHPより引用

下仁田中・学校教育目標



下仁田中・目指す学校像

生徒の主体性を育む



☆自ら考える、判断する、決定する、行動する力を
育み・発揮する機会の設定
☆見守り、支援の充実

具体的な取組

「やってみよう！」

- ① **授業**で意識してやってみよう！
- ② **校務分掌**でやってみよう！
- ③ エピソードカード(いいところ探し)に記録してみよう！
- ④ **行動指標**を作成しよう！

《自らの成長を実感した生徒の言葉》

- ・自分たちで、「こんなにすごいことができるんだ」と思った。
- ・自分のことも相手のことも大切にできるようになったので、うれしかった。
- ・クラス全体で考え、自分たちでクラスを立て直すことができた。
- ・周りを見て、自分から手伝い、相手のことを考えながら行動できた。

目指す生徒の姿

愛する	思いや考えを伝え合い 聞き合う	人との関わり つながりを大切にする
	教職員・生徒の 話合いで 決定！	
考える	自らより良くしようとする	
行う	粘り強く 行動する	新たなことに 挑戦する

上野村立 上野小学校

※上野村唯一の小学校
池田小・利根小と同規模



学力向上対策
单元内自由進度学習
きめ細かな少人数指導

少子化対策
山村留学
かじかの里学園

学力向上対策
英語教育
小1からの早期化

令和5年度 児童数

学年	男	女	計
1	6	3	9
2	3	4	7
3	4(1)	5(1)	9(2)
4	5(2)	2	7(2)
5	6(2)	8(2)	14(4)
6	9(4)	3(1)	12(5)
特支	1	0	1
合計	34(9)	25(4)	59(13)

()は「かじかの里学園」の山村留學生

令和5年度 教職員数

校長1、教頭1、教諭9、養護教諭1、
事務主任1、栄養士1、
スクールカウンセラー1、
図書館司書1、用務員1、ALT1、
支援員2

令和6年度 学校経営の概要

基本理念「上野村に誇りを持ち、
ふるさと上野村に心を寄せ続けられる児童生徒の育成」
学校教育目標
「進んで学び 心豊かに たくましく生きる子どもの育成」

Challenge ～やればできる～

- ・安心して失敗できる空気感づくり
- ・失敗を楽しみながら修正して学んでいく

「自分から」自分で考え、自分で決め、自分から行動する

- ・勉強も運動も遊びも「やらされる」から「やりたい」へ

一人一人の児童生徒が 自分のよさや可能性を認識する

- ・「個別最適な学び」の実現
- ・子供がもつ自ら学ぶ力の発揮

自習

マイプラン学習

授業

単元内

自由進度学習



山村留学 かじかの里学園

【登校前】	
06:00	起床
06:10	朝のあいさつ 当番活動(調理・掃除)
07:00	朝食・片付け・身じたく
07:45	中学生出発
07:50	小学生出発
【帰園後】	
18:30	宿題・入浴・調理手伝い 夕食・片付け
19:30	ミーティング
20:30	洗濯物干し・就寝準備
21:00	小学生消灯・就寝
22:00	中学生消灯・就寝

Q:山村留学は何年生から受け入れていますか？ ※HPより引用
A:小学3年生から中学2年生まで。

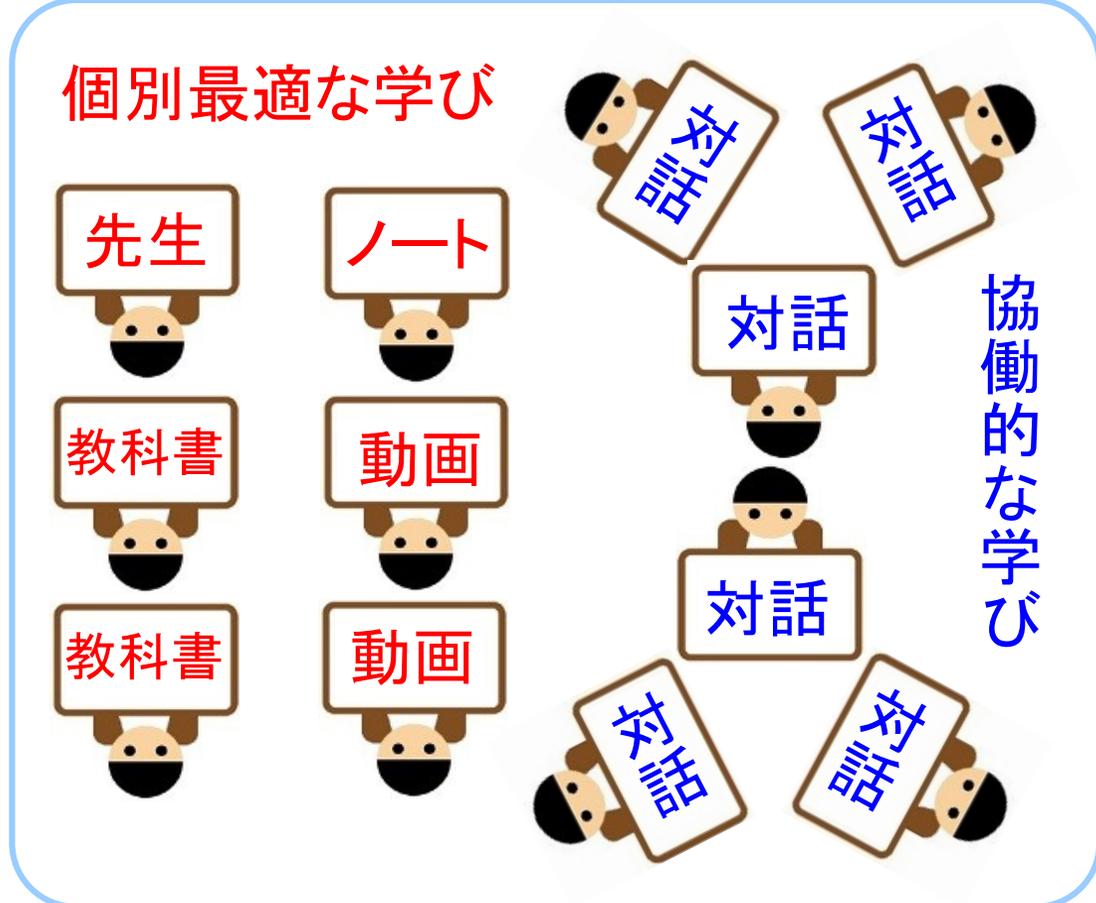
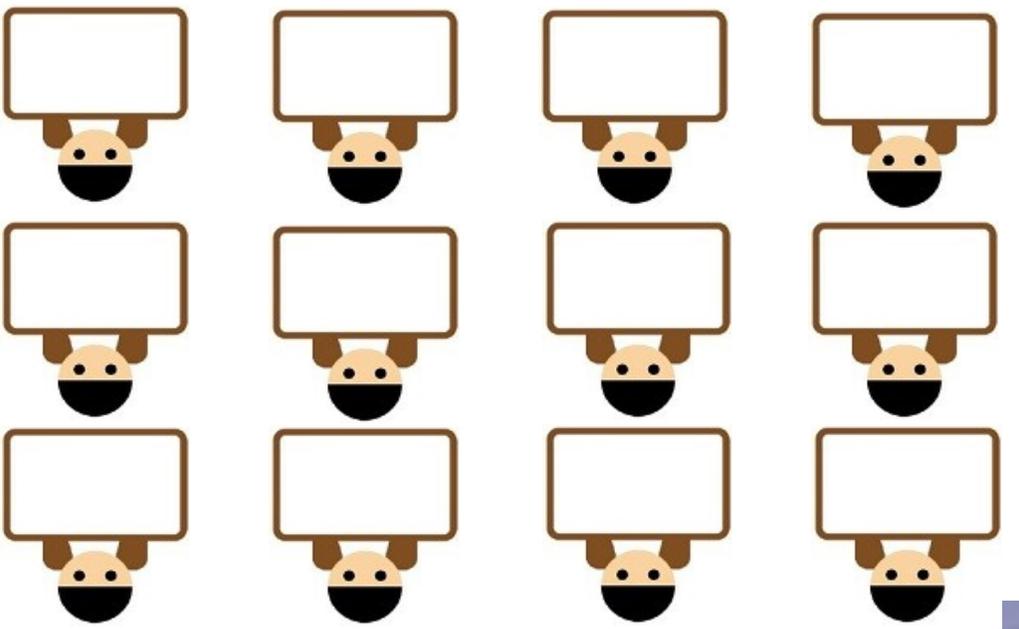
Q:年度途中からの入園はできますか？
A:原則として年度途中からの入園は認めていない。
留学の期間は、年度頭の4月から年度末の3月までの1年間。

Q:山村留学にかかる費用はどれくらいですか？
A:初年度.....入園金10万円
月々.....センター使用料2万円／学園費2万5千円／
個人学習費1万円／保護者会費3千円
その他、学校の集金や部活の用具代(中学卓球部)
給食費や小学生のバス通学費等の不足分は村負担。

移住とは異なり、主に関東圏内から、「豊かな自然があふれる環境の中で学びたい」子供や、「きめ細かな少人数指導」を期待する保護者が入園を希望して、子供のみ留学する。教育への意識の高い家庭が多い。

単元内自由進度学習 (マイプラン学習) ～少人数をいかした きめ細かな指導の充実～

6年算数 2024.5.21
「円の面積を求める公式はどうやってつくる？」



様々な学び方
一人でじっくり学ぶ、二人で学ぶ、
グループで学ぶ、全員で学ぶ

いろいろな考えの深め方
先生と一緒に考える、友達と一緒に考える、
1人1台端末を活用して一人で考える



誰一人、「独り」になっていない。
個人で課題に向き合っているが、行き詰ったところで「聞く」。
「教え合い」ではなく、「学び合い」が成立している。
初めの一步は「聞く」こと。
子供同士の人間関係もよくなる。

学びの基本「話す」

【対話】と【交流】



- 教師による説明の時間・回数を減らす。
- 板書をノートに書き写す作業時間を減らす。日頃から大切なポイントを【メモ】する習慣付けを行う。

子供同士が【協働的】に取り組む【演習・実験・創作等】の時間を増やし、【対話】と【交流】を生み出す

- 子供を中心に据え、「教師ー子供」の一問一答式のキャッチボール型のやりとりではなく、答えが1つではない問いにより、パス回し型の【子供ー子供の対話】を増やす。
- 挙手した全ての者の【発言】の機会を確保する。

答えが1つではない問い

解決したくなる魅力的課題

工夫

パス回し型の 子供同士の対話

工夫

教師主導から子供主体の授業へ

発言した者が 次の発言者を指名 全員が発言してから2巡目

主体的・対話的で深い学び



自分の考えを広げ深める「対話」

太田市立北の杜学園

(義務教育学校)



教育内容や学習活動の量的・質的充実

発達の早期化等に関わる現象

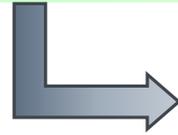
いわゆる「中1ギャップ」

社会性育成機能の強化の必要性

学校現場の課題の多様化・複雑化



一人一人の教員の努力だけでは
十分な対応が困難である。



義務教育学校・小中一貫校・適正規模の学校

太田市立北の杜学園

R6年度児童生徒数 778名

4つのステージの設定

(Ⅰ…1・2年/Ⅱ…3・4年/
Ⅲ…5・6・7年/Ⅳ…8・9年)

5学年からの段階的な

教科担任制

異年齢集団による交流機会の充実



桐生市立黒保根学園

(義務教育学校)

桐生市立黒保根学園

R6年度児童生徒数53名

特色ある教育活動の推進

確かな学力の向上

英語教育

ふるさと黒保根学

3. 教育課程の編成・実施、指導方法に関する様々な工夫 ～まとめ～



運動会

H21年度
沼田中



部活



3年生



マラソン大会



合唱コンクール(3学年合唱)

4. 沼田市の特色をいかし魅力ある教育活動を推進する「新たな学校」づくり ～群馬県教育ビジョン～

第4期 群馬県教育振興基本計画
2024年4月～2029年3月

群馬県教育ビジョン

自分で決めて、
自分で考えて、
自分で動き出す



群馬県
群馬県教育委員会

これからの時代を
生きていくために必要なこと
**自分で考えて、
自分で決めて、
自分で動き出す**

より良くしたい気持ちは
誰もが持っている。
大人も 子どもも それぞれが
社会を形成するメンバーだ。

— 持ち続ける視点① —
大人も、子どもも、
社会的な“一人の主体”



自分で考えて、自分で決めて、自分で動き出す

群馬県の教育が目指す5つの学習者像

- 1. 自らが主語となる学びをつくり、深めていく
- 2. 対話と交流により、信頼関係を築いていく
- 3. 生涯にわたり学び続ける喜びを実感し、共有していく
- 4. 多様性を尊重し、互いに認め合う
- 5. 社会課題を自分事化して、行動に移す



*「目指す学習者像」は、5つの独立した人物像ではありません。一人の人に適用はあっても身に付けてほしい要素として位置付けています。

“学び”は学校だけじゃない。
様々なつながりで
様々な場所で
様々な学び合いを。

— 持ち続ける視点② —
学校で、家庭で、地域で…
自ら学び育つ、共に学び育つ

目指す学習者像実現のための5つの重点政策

- #### 1 変化の激しい社会に対応できる 資質・能力の育成

発達段階や個性、興味関心に応じた一人一人の主体的な学びを通じて、知識・技能等の認知能力と学びに向かう力等の非認知能力を相互に強化しながら身に付ける

 - 自ら学びをつくる力の育成
 - 自ら考え、判断し、行動できる力の育成
 - 自立の基盤となる資質・能力の育成
- #### 2 多様性を尊重し、協働する力の育成

全ての子どもの可能性を最大限に伸ばすとともに、一人一人が自分を大切に、異なる状況にある他者を尊重し、対話や交流を行い、互いにとって良い方向を見い出そうとする姿勢を身に付ける

 - 特別支援教育の推進
 - 互いを理解・尊重する活動の推進
 - 多様な価値観を踏まえた協働の推進
- #### 3 自分と社会をより豊かにするための生涯にわたる学びの支援

人生100年時代において学び続ける意欲を高め、自らの興味関心に基づいて社会課題を自分事化して深める学びや、文化・芸術との関わりを深めること等により、それぞれの学習者の自己実現や地域コミュニティの基盤形成につながる学びを豊かにすることを目指す

 - 主体的に社会の形成に参画する態度の育成
 - 社会教育や体験活動等の多様な学びの充実
- #### 4 心と体の健康に対する理解と向上

自他の生命の大切さを認識し、心と体の健康に関する基本的な知識を身に付け、心身相関の関係性等を理解して実践につなげることで、全ての学びの基盤である心身を鍛える術を身に付ける

 - 心と体の健康への理解と意識向上
 - 身体活動の充実とスポーツを楽しむ意識の醸成
 - 安全・安心に係る意識の向上
- #### 5 時代の変化に対応した教育イノベーションの推進

教育の「不変（変わらない本質）」の部分も「流行」の部分も大切にしながら、果を擲げて「始動人」（自分の頭で未来を考え、動き出し、生き抜く力を持つ人）の育成につながる新しい取組に挑戦する

 - 自分で考え動き出す【課題解決能力育成】
 - デジタルツールを使いこなす【デジタル人材育成】
 - 世界に目を向ける【グローバル人材育成】
 - 教育DX【DXを基盤とした新しい学びの確立】
 - 全ての人が活躍できる【誰一人取り残さない学び】

群馬の教育を推進する基盤となる5つの重点政策

- #### 1 「人」を支える取組の充実

教職員が能力を最大限に発揮できる環境を整備することで、児童生徒と教職員が生き生きと学び合える学校を実現する

 - 教職員の働き方向上
- #### 2 これからの時代の学びを支える施設・設備整備の推進

時代に応じて変化していく学びに対応するため、将来を見据えた施設・設備等の整備を推進する

 - 県立学校の再編整備及び施設・設備整備の推進
- #### 3 これからの時代の学びを見据えた体制の整備

学習者が活躍する将来の社会に必要とされる資質・能力を育む教育を推進するため、新たな学びの在り方に対応できる教育体制を整える

 - 学校の魅力向上
 - デジタル学習基盤の整備
 - インクルーシブ教育推進に向けた体制整備
- #### 4 学びの充実に向けた様々な主体による連携・協働の推進

学びを学校だけで完結させず、「家庭」「学校」「地域」「行政機関」「民間団体・企業」等の連携・協働により、学校教育・社会教育が相互に関わりを持ちながら、自己実現や持続可能な地域コミュニティの基盤となる生涯にわたる学びを広げていく

 - 「地域とともにある学校」・「学校とともにある地域づくり」に向けた取組の充実
 - 生涯学習・社会教育を推進する環境整備
- #### 5 全ての子どもの学びを支える取組の充実

全ての子どもの可能性を最大限に伸ばす教育を目指し、教育費負担の軽減を図りつつ、個別の課題を抱える子どもに対して、「教育」と「福祉」「保健」「医療」「司法」「地域」「民間団体・企業」等の連携により、年齢や育歴の多様性等に応じた支援を行う

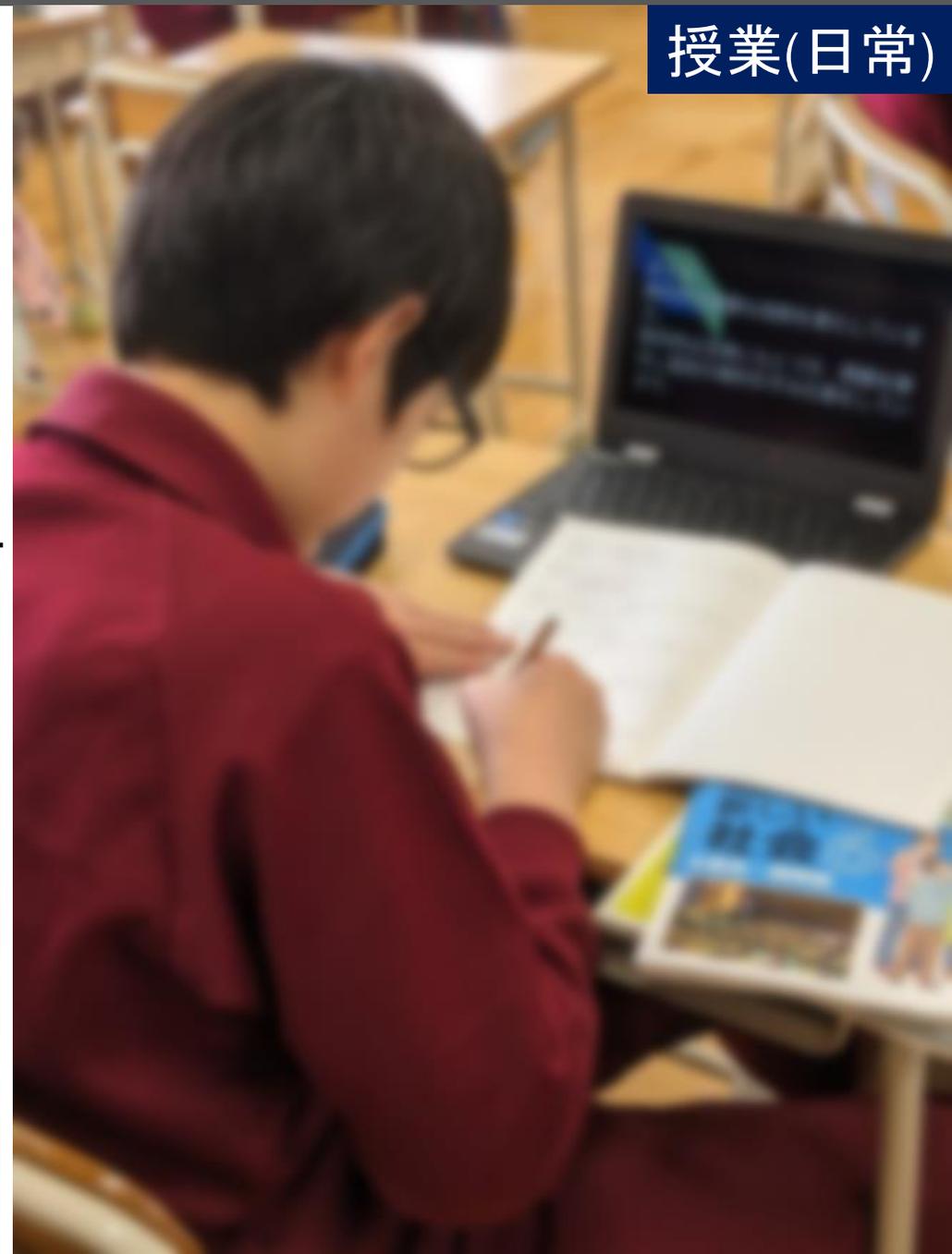
 - 教育に係る経済的支援
 - 不登校児童生徒等への支援の充実
 - 様々な背景要因により本来持つしなやかさや力強さを発揮しつらい子どもに対する支援



始業式

ICT活用で 変わる 学校教育

- ・学びの質の向上、効率化
 - ・創造的活動の推進
 - ・負担軽減
- etc.



授業(日常)



国際交流

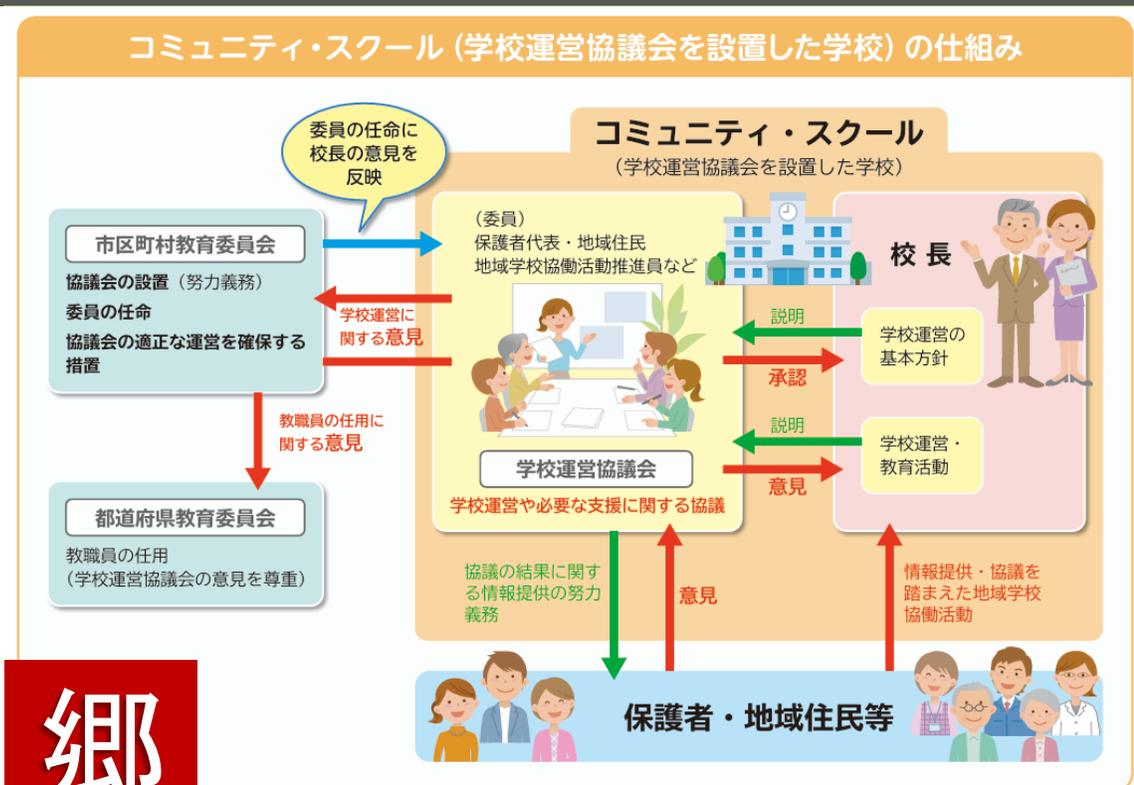


研究授業(オンライン中継)

4. 沼田市の特色をいかし魅力ある教育活動を推進する「新たな学校」づくりに向けて ～現状と挑戦～



たんばら・森林の学校 小学4年生参加



「ぬまた未来創造学」

ふるさとを未来を担うたくましいひとづくり・まちづくり

学校	幼稚園	小学校	中学校	将来
幼稚園	<ul style="list-style-type: none"> 〇地域の特色をいかした遊び 〇身近な自然や文化・伝統に親しみ遊び 	<ul style="list-style-type: none"> 【1・2年生】 〇生活科 〇特別活動 〇特別の教科 道徳 	<ul style="list-style-type: none"> 【3～6年生】 〇社会科 〇特別活動 〇特別の教科 道徳 〇総合的な学習の時間 	<ul style="list-style-type: none"> 〇卒業 (進学) 後... 夢や希望に向かって進んでチャレンジし、将来、沼田市に貢献する気概をもつ人間に成長
環境	沼田で遊ぶ	沼田に親しむ	地域 (学区) を知る	人間関係形成能力 社会形成能力
生活科	心豊かぶるワクワク感動体験	自分の住む地域のすばらしさや魅力を知り体験すること、地域への愛着をもつ。	【知る】	自己理解・自己管理能力
総合的な学習の時間等	【ぬまた未来創造学】	【考える】	【行動する】	課題対応能力
キャリア教育の視点	【ぬまた未来創造学】	【生きる】	【生きる】	キャリアデザイン能力

郷土愛



利根中・3学年 総合的な学習の時間「森に学ぶ」

4. 沼田市の特色をいかし魅力ある教育活動を推進する「新たな学校」づくりに向けて ～現状と挑戦～



課題解決に向けて…
学校の小規模化 ⇒ 部活動の運営
教員の資質向上

ねっちゅう 沼田の活力ある中学生 NECHU (Numata Energetic CHUgakusei)



休日部活動の地域展開(地域移行・地域連携)



沼田市教志塾「言向和平」

頑張る先生

沼田市教育委員会 3つの基本姿勢【3C】
創造・協働・意思疎通

あまの やすがわら
天野安河原



言向和平 (ことむけやわす)
日本の神さまたちは、何かあるたびに集まり、
言葉を使って気持ちを伝え合って、世界をつくった。
※沼田市内の小中学校に勤務する教職員も学び続ける研修会の愛称。

4. 沼田市の特色をいかし魅力ある教育活動を推進する「新たな学校」づくり

学び合い・高め合い・磨き合う環境 【切磋琢磨】

きめ細かな少人数指導 【個や多様性への配慮】

特色ある魅力的な教育活動 【子供を主語にする学校】

地域との密接なつながり 【みんなでつくる学校】

“未来志向”で取り組む
【新たな学校づくりのキーワード】

“安心・期待”



“新しい当たり前”

《幸福・ウェルビーイング》 地域とともにある学校づくり、学校を核とした地域づくり、部活動の地域展開
【コミュニティ・スクール】

《たくましい人づくり》 人間力(社会性)・学力・体力等の向上
人間関係構築力の育成(集団の中での学び)
教育部活の推進
【創造・協働・意思疎通】
【適正規模】

《たくましいまちづくり》 郷土愛の育成、体験的・探究的な学びの充実
安心・安全な教育環境の整備(学校施設・通学路等)
【ぬまた未来創造学】
【セイフティ沼田】

《エージェンシー》 自分で考えて、自分で決めて、自分で動き出す 自己肯定感・自己有用感の醸成
【主体性・非認知能力の育成・不登校対策】

《多様性》 指導観の転換・指導法の工夫⇒ICT活用・対話と交流・異学年交流・チーム担任制
特別支援教育の充実
【インクルーシブ教育】

学校・家庭・地域の「創造・協働・意思疎通」による質の高い教育の実現

創造……………課題解決のために、知識や技能、情報等を活用し、新たな価値や取組を生み出す。
協働……………同じ目標に向かい、相手の立場に立って物事を考え、協力し合って行動する。
意思疎通…多様性を尊重し、伝え合うことを通して、お互いの理解や共通認識を深める。



未来を担うたくましいひとづくり・まちづくり

自律：自分で考え、判断・決定し、行動できるひとづくり

共育：子供も大人も、学校も地域も、共に学び成長できるまちづくり